

風しんワクチン・麻疹風しん混合ワクチン説明書

○必ずお読みください。

1 風しん・麻疹の症状について

○ 風しん

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。ウイルスに感染してもすぐには症状が出ず、約14～21日の潜伏期間がみられます。その後、麻疹より淡い色の赤い発しん、発熱、首のうしろのリンパ節が腫れるなどが主な症状として現れます。また、そのほかに、せき、鼻汁、目が赤くなる（眼球結膜の充血）などの症状がみられることもあります。子どもの場合、発しんも熱も3日程度で治ることが多いので「三日ばしか」と呼ばれることがあります。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は風しん患者約3,000人に1人、脳炎は風しん患者約6,000人に1人ほどの割合で合併します。大人になってからかかると子どもの時より重症化する傾向が見られます。

妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。

○ 麻疹

麻疹（はしか）は、麻疹ウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって発症します。ウイルスに感染後、無症状の時期（潜伏期間）が約10～12日続きます。その後症状が出始めますが、主な症状は、発熱、せき、鼻汁、めやに、赤い発しんです。症状が出はじめてから3～4日は38℃前後の熱とせきと鼻汁、めやにが続き、一時熱が下がりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱となり、首すじや顔などから赤い発しんが出はじめる、その後発しんは全身に広がります。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。

合併症を引き起こすことが30%程度あり、主な合併症には、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などがあります。発生する割合は麻疹患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約6人です。脳炎は約1,000人に2人の割合で発生がみられます。

また、麻疹にかかると数年から10数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という重い脳炎を発症することがあります。これは、麻疹にかかった者のうち約48,000人に1人の割合で見られます。

麻疹（はしか）にかかった人のうち、1,000人に1人程度の割合で死亡することがあります。

2 予防接種の効果と副反応について

予防接種を受けた方のうち、95%以上が免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、風しんや麻疹にかかるとを防ぐことができます。

ただし、予防接種により、軽い副反応がみられることがあります。また、極めて稀ですが、重い副反応がおこることがあります。予防接種後にみられる反応としては、下記のとおりです。

① 風しんワクチンの主な副反応

（風しんの予防接種のみを実施するときに使用）

重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー（0.1%未満）や血小板減少性紫斑病（100万人接種当たり1人程度）が報告されています。

その他の副反応としては、稀に発しん、じんましん、紅斑、掻痒（かゆみ）、発熱、リンパ節の腫脹、関節痛等を認めることがあります。成人女性に接種した場合、小児に比して関節痛を訴える頻度が高いといわれています

② 麻疹風しん混合ワクチンの主な副反応

（麻疹と風しんの予防接種を同時に実施するときに使用）

主な副反応は、発熱（接種した者のうち20%程度）や、発しん（接種した者のうち10%程度）です。これらの症状は、接種後5～14日の間に多くみられます。**接種直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱、発しん、掻痒（かゆみ）などがみられることがあります。これらの症状は通常1～3日でおさまります。**ときに、接種部位の発赤、腫れ、硬結（しこり）、リンパ節の腫れ等がみられることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。

稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、急性血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、脳炎及びけいれん等が報告されています。

3 予防接種による健康被害救済制度（医薬品医療機器総合機構 医薬品副作用被害救済制度）について

この予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での入院が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、被接種者が申請する独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済措置が適用となる場合があります。手続きについては、市町村へお問い合わせください。

4 接種に当たっての注意事項

□予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

また、以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ①明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある場合
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤現在、妊娠している場合
- ⑥その他、医師が不適当な状態と判断した場合

※女性の場合、あらかじめ接種前約 1 ヶ月間は避妊をしておきましょう。

【女性への注意事項】

妊娠している者又はその可能性がある者は、予防接種不相当者として接種することができませんが、出産後又は妊娠していないことが確認された後適当な時期に接種を受けてください。

接種に当たっては、接種を受ける医師、お住まいの市町村の予防接種担当課に御相談ください。

なお、接種後 2 ヶ月間は、妊娠を避けることが必要です。

5 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①接種後 30 分は急な副反応がみられることもありますので、接種会場で様子を観察してください。
- ②微熱、接種局所の発赤・腫れ・しこり、発赤など認められることがありますが、通常の免疫反応であり、数日以内に自然に治るので心配の必要はありません。
接種局所のひどい腫れ・高熱・ひきつけなどの強い副反応の症状がありましたら、医師の診察を受けてください。また、診察の結果につきましては下記の市町村担当課までご連絡ください。
- ③入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすらないようにしてください。
- ④接種当日は、はげしい運動は避けてください。
- ⑤ワクチン接種後、②のような副反応に注意し、また、他のワクチンを接種する場合は、注射生ワクチン（水痘・おたふくかぜ等）を接種する場合に限り、27 日以上あける必要があります。

令和 6 年度版
茂原市長生郡医師会
長柄町 健康保険課

長柄町 健康保険課 健康推進係 TEL：35-2115 FAX：35-2459